講演会　概要

「個の力を，チームの力に　～一杯のコーヒーにかけた想い～」

ＡＧＦ鈴鹿株式会社　代表取締役社長　　塚本　祐司　氏

平成 30 年２月９日，鈴鹿市民会館で第 49 回東海地区公立小中学校事務研究大会鈴鹿大会が行われ，午前中に，AGF 鈴鹿株式会社 代表取締役社長　塚本祐司氏に「個の力を，チームの力に　～一杯のコーヒーにかけた想い～」と題してご講演頂きました。

AGF 鈴鹿株式会社は，国内でも有数の巨大企業である味の素グループの中の味の素 AGF 株式会社の生産拠点として，国内のコーヒー商品生産においても大きな役割を担っておられる，地元になじみの深い企業です。塚本様は，昭和 60 年に味の素ゼネラルフーヅ株式会社に入社され，最初の赴任地が今回の大会開催地である鈴鹿市であったそうです。代表取締役社長として久しぶりに戻ってこられた鈴鹿市に対して，思い出深い土地であるという思いをお持ちで，鈴鹿市で働く者としては嬉しく思いました。

企業はかつて，その規模の大小に関わらず，経済的な価値を創出すること，またモノを安定して供給することが大きな使命でした。しかし，近年の人口減少・高齢化といった様々な社会の変化により，企業に求められるものは，地域貢献・コンプライアンス・社会課題への積極的な取り組み等，多岐にわたるようになりました。これは，学校が単に勉強を教えるところとしての役割だけでなく，地域とのつながり等，多くの役割を求められるようになったことと似ているのではないでしょうか。今回のご講演を通して，AGF 鈴鹿株式会社が，問題解決や企業の大きな目標である「おいしいコーヒーを作る」ために取り入れている様々な手法を学び，私たち自身の業務改善や「チーム学校」の中で果たすべき役割などについて，考える機会にしていただければと思います。

社会のニーズの変化に対応するため，また，工場の継続的成長のために，AGF 鈴鹿株式会社では問題解決の改善活動として，「８ステップ手法」や「4M 分析」という方法を取り入れています。８ステップ手法とは，問題を明確にし現状を把握するところから，原因を突き止めて対策を考え，設定した目標に対する成果を定着させるための段階的な考え方です。４M 分析は，問題の要因を「Man（人）・Machine（設備）・Method（方法）・Material（原材料や環境）」の 4M ごとに絞り込み，分析し解決策へと繋げる考え方です。この分析する力は，科学的においしさを追求するためにとても重要であり，その他に ICT や AI なども効果的に活用して，「おいしい」製品を効率的に作り出されています。

私たちが，学校で起きるさまざまな問題に対応する際にもこれらの考え方を活かすことができると思います。例えば，不登校の児童生徒がいた場合やけがをしてしまった場合に，その原因は何なのか（どこにあるのか）・何を改善する必要があるのかを的確に分析し，日々の事象を共有しながら次へ繋げていくことが大切です。

そして，企業でも学校でも，組織を維持・発展させていくために欠かせないのが人材育成です。三重県では，小中学校事務職員の新規採用者研修として，三重県総合教育センタ

ーで行われる集合研修のほかに，共同実施組織内で行う職場内研修も制度化されています。この中には学校訪問も含まれており，先輩事務職員の学校での仕事の様子を見学することができます。また，新規採用者研修以外にも，経験年数に応じた研修が準備されています。AGF 鈴鹿株式会社でも，社員の成果報告の場の設定や，内部及び外部の教育機関と連携した教育・研修の導入なども取り入れて，組織のチーム力向上を目指されているということです。

近年では，企業・学校を問わず，地域貢献や働き方改革が大きな目標・課題として叫ばれています。AGF 鈴鹿株式会社では，社会見学等での工場見学の受け入れやイベントへの協賛を通して，社会の活性化や企業のファンづくりに取り組まれています。また，陸上競技走り高跳びの日本代表選手である衛藤昂選手も会社に所属されており，「鈴鹿市と・き・め・きスポーツ大使」も務めるなど地域のスポーツ振興にも力を入れています。そして，インフラ整備やハラスメント対応など，働きやすい職場環境づくりをすすめ「チーム力」を活かすことで，個と企業が共に成長することを目指されています。

学校でも，地域とのつながりや地域に根ざした学校づくりを目指したコミュニティスクール制度の導入など，地域連携・地域貢献が進められています。ただ，地域によって取り組み方には差があるのが現状であり，まだ課題が残る部分もあるかと感じます。「応援してもらえる学校」であるために，できることを考えていかなければなりません。

「チームとしての学校」という言葉を聞くようになり数年が経ちました。現状，学校で勤務していても大きな変化を感じることは少ないですが，今後は徐々に私たち学校事務職員に求められることも変化していくと考えられます。教員が子どもと過ごす時間を増やすにはどうしたらよいのか，よりよい教育環境を提供するにはどうしたらいいのか，地域とともにある学校であるためにどうしたらいいのかなど，企業の姿勢や取り組みから学ぶことができることも多いのではないでしょうか。今回のご講演が，そういったことを目指していく・考えていく上での一助となれば良いと思います。